

授業科目名 科目コード	ゼミナール I 後 (Seminar 1) 2025-0-11-057					担当教員	複数人		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	1	配当年次	1年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要

ホームルーム的役割を持ちつつ、(1)調査研究の進め方、(2)調査研究の成果表現法、(3)「社会人基礎力」向上、(4)国語・社会の基礎知識の確認・醸成、の実現を目標とする授業である。2年次以降の様々な専門授業において、調査研究を進めてその成果の取りまとめることができるようになることを目指す。

(1)と(2)については、入門的な調査研究を進めて、期末にレジユメないしレポートを用意し、授業内でスピーチを実施すること目標とする。

(3)については、前期ゼミに引き続き、社会人基礎力向上にむけたディスカッション、グループワーク等に取り組む。

(4)については、授業時間外学修として、米百俵ドリル（国語・社会）に取り組む。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力を育成する授業である。

③ 授業の進め方・指示事項

毎回、調査研究の進め方、成果の整理とプレゼンテーションなどに関して教科書や配布資料等により解説を行い、各自が実践する。期末のレポート／レジユメ完成とプレゼンテーション実施に向けて適宜課題を課し、平素からの学びの成果を確認する。米百俵ドリルなどを用いた時間外の課題へも取り組む。なお、「データ分析法」等の関連の取り組み内容については、学生の理解度合等により、各ゼミで授業内容を調整する。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

「ゼミナール I 前」「キャンパスライフ入門」「キャリア開発 I」

⑤ テキスト（教科書）

山田剛史・林創（2011）『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房

⑥ 参考図書・指定図書

佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編(2014)『大学学びのことはじめ初年次セミナーワークブック 3訂』ナカニシヤ。その他、新書リストの図書。

⑦ 評価Aに対応する具体的な学習到達目標の目安

(i) 調査研究の進め方を習得し他者に説明できる。

(ii) 調査研究の成果をもとにレポート／レジユメを作成できる。

(iii) 調査研究の成果をスピーチにより発表できる。

- (iv) ディスカッション、グループワーク等での話合いで積極的に参加できる（「社会人基礎力」の「チームで働く力」等の実践）。
- (v) 大学での学びの基礎となる国語・社会の基礎問題を正答できる。

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 調査研究の進め方の習得	資料等に頼らずに、他者に調査研究の進め方を説明でき、他者の調査研究に積極的に助言・支援ができる	資料等に頼らずに、調査研究の進め方を説明できる	資料等を参照することで、調査研究の進め方を説明できる	資料等を参照し、さらに教員の助言を得ることで、調査研究の進め方を説明できる	資料等を参照し、かつ教員の助言も受けても、調査研究の進め方を説明できない
(ii) レポート／レジュメ作成	自身の力で、期待以上の内容のレジュメ／レポートを作成できる	自身の力で、十分な内容のレジュメ／レポートを作成できる	教員の指示に従い改善作業を経て、十分な内容のレジュメ／レポートを作成できる	教員の指示に従い改善作業を経て、さらに教員の直接の助言も受けることで、十分な内容のレジュメ／レポートを作成できる	教員の指示に従い改善作業を経て、さらに教員の直接の助言も受けても、十分な内容のレジュメ／レポートを作成できない
(iii) 調査研究成果のスピーチ	自身の調査研究に基づいて、授業で解説した水準を超える内容のスピーチを準備し、資料類の参照なしに実施できる	自身の調査研究に基づいてスピーチを準備し、資料類の参照なしに実施できる	自身の調査研究に基づいてスピーチを準備し、資料等を参照しながら実施できる	自身の調査研究に基づいてスピーチを準備し、資料等を参照しながらかつ教員の助言も受けることで、実施できる	自身の調査研究に基づいてスピーチを準備できない。または、準備はできたが、資料等を参照しながらかつ教員の助言も受けてもスピーチを実施できない
(iv) 社会人基礎力	ディスカッション、グループワーク等に参加し、話合いを進展させるような建設的発言が積極的に行える	ディスカッション、グループワーク等に参加し、積極的に発言を行い、話合いをリードできる	ディスカッション、グループワーク等に参加し、話合いに関連する発言が自主的にできる	ディスカッション、グループワーク等で、指名されることで、話合いに関連する発言ができる	ディスカッション、グループワーク等に参加しない。ないし、参加した場合で、指名されても、話合いに関連する発言ができない

(v) 国語・社会の基礎知識	国語・社会の基礎問題を完璧に正答できる	国語・社会の基礎問題を十分正答できる(八割以上の回答)		国語・社会の基礎問題を十分正答できない
----------------	---------------------	-----------------------------	--	---------------------

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			30%	20%	18%	20%	12%	100%
(i) 調査研究の進め方習得			30%					30%
(ii) レポート/レジюме作成				20%				20%
(iii) 調査研究成果のスピーチ					18%			18%
(iv) 社会人基礎力						20%		20%
(v) 国語・社会の基礎知識							12%	12%
フィードバックの方法	課題・発表等に対する評価は、その都度個別にフィードバックする。							

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
各自が2年次以降の様々な専門授業において調査研究を進める能力を醸成できるよう、全ゼミで歩調を合わせて取り組んでいく。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	オリエンテーション、自己紹介	次回授業内容の予習課題へ取り組む。グループワークの準備	120分
2	課題発見力①（概要、課題発見の方法、研究の問の立て方）、 グループワーク/ディスカッション（その1）	レポートで取り組む分野・範囲を絞る。テーマの検討する。米百俵ドリル①	120分
3	課題発見力②（テーマ設定）	各自がレポートで取り組む分野・範囲を絞りテーマを検討する。米百俵ドリル②	120分
4	情報収集法①（概要、文献検索と情報収集）	授業で取り上げた情報収集法によりレポートテーマに関連する情報を収集する。グループワークの準備 米百俵ドリル③	120分

5	情報収集法②（図書館活用法、インターネット情報活用法） グループワーク／ディスカッション（その2）	授業で取り上げた情報収集法によりレポートテーマに関連する情報を収集する。米百俵ドリル④	120分
6	情報収集法③（ヒアリング、アンケート等の調査法について）	授業で取り上げた調査法（ヒアリング、アンケート等）の復習。米百俵ドリル⑤	120分
7	情報整理法（概要、書類等の整理と管理、PCによる情報管理法）	Word、Excel等を活用し、これまで収集したレポート関連の情報を整理する。グループワークの準備。米百俵ドリル⑥	120分
8	データ分析法①（基本的なグラフ作成、グラフ読み取り） グループワーク／ディスカッション（その3）	グラフに関する授業内容の復習とグラフ作成の課題に取り組む。米百俵ドリル⑦	120分
9	データ分析法②（統計の基本：代表値について）	代表値等に関する授業内容の復習と関連の課題に取り組む。米百俵ドリル⑧	120分
10	データ分析法③（統計の基本：ちらばり等について）	ちらばり等に関する授業内容の復習と関連の課題に取り組む。グループワークの準備。米百俵ドリル⑨	120分
11	データ分析法④（統計の基本：数値データの処理のまとめ） グループワーク／ディスカッション（その4）	データ処理に関する授業内容の復習と関連の課題に取り組む。米百俵ドリル⑩	120分
12	レポート／レジュメ作成とプレゼンテーションの準備①（レポート作成法の振り返りと実践）	レポート／レジュメ作成法の振り返り、レポート作成。米百俵ドリル⑪	120分
13	レポート／レジュメ作成とプレゼンテーションの準備②（プレゼンテーションの準備、レジュメ作成法の振り返りと実践）	レポート／レジュメ作成の継続、プレゼンテーションの内容・組み立てを検討。レジュメ作成の準備。米百俵ドリル⑫	120分
14	レポート／レジュメ作成とプレゼンテーションの準備③（プレゼンテーション内容の組み立て、レジュメ作成、発表練習）	レポート／レジュメ作成の継続、プレゼンテーションの内容・組み立ての検討	120分
15	調査レポートの発表、全体振り返り	レポート／レジュメを完成。発表練習。これまでの授業のポイントの振り返り	120分

⑫ アクティブラーニングについて
知識定着・確認型 AL／協同学修型 AL を採用する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
実務経験と授業科目との関連性